



離れて暮らす両親や子供のための 見守り用サービス&用品ガイド

近年、高齢運転者による事故が増え、社会問題となっている。そして、同様に増え続ける核家族と独り身世帯。離れて暮らしていると、健康状態も運転適性も分からない。カーグッズやサービスを利用すれば、その不安を減らすことが可能だ。

年齢層別の免許人口10万人当たり死亡事故件数



※出典：警察庁交通局「平成29年における交通死亡事故の特徴について」(原付以上第一当事者)

75歳以上および10代で運転リスク増加

統計グラフからも分かるように、死亡事故件数は75歳から大きく跳ね上がる。老化による判断力、行動力の低下が原因となっているのは一目瞭然だ。また、免許取得直後の10代が多いことも分かる。この事実をしっかり向き合い、家族で守り合うようにしたい。

これらの問題を緩和できるのが、ここで紹介するカーグッズとサービス。ふらつき、急加速、急ブレーキなど異常な運転を検知すると、離れた家族に一報が入る。危険な運転挙動を可視化することで事故のリスクが減り、免許返納の判断材料にもなる。同居、別居に限らず、健康状態と運転適性を知ることができるのだ。これ以上悲しみを増やさないためにも、積極的な導入を推奨したい。

緊急提案 運転見守りの術

危険運転を可視化 免許返納の判断材料に

厚生労働省による「国民生活基礎調査の概況」によると、単独世帯と核家族の総数は年々上昇しているという。首都圏に集中する大学や企業、少子化といった社会情勢からすれば致し方ないことではある。しかし、親にとつての子供、子供にとつて高齢となった親は、元気で暮らしているか気になるもの。その時代背景により、いまは家電製品等によって安否確認できるサービスも増えた。そして同様に、クルマの運行状況を報せられるカーグッズやサービスにも注目が集まっている。

近年、高齢運転者による事

故という、痛ましいニュースを目にするのが多くなった。高齢化が進む日本においてこの現象は当然といえるが、それで済まされる問題ではない。事故は単独に限らず、被害者が出ることも大半だ。運転者、同乗者だけでなく、まったく罪のない他人の命を奪い、その家族や知人、多くの人に悲しみを生む。加害者となれば、賠償問題もつきまとう。

「高齢者は免許を返納すべき」という声も多く挙がるが、それほど簡単な問題ではない。居住地によっては公共交通機関の利用が難しく、移動の手段が自家用車しかない場合もあるだろう。老化は徐々に進むため気づきにくく、加えて長い運転経験から「自分は大丈夫」と、家族の説得を聞かずに自主返納しない高齢者が多いのも事実だ。